

67. この患者の拡張能障害について最も適当なものは次のうちどれか。

- A. 拘束性パターンの拡張能障害.
- B. 弛緩能低下パターンの拡張能障害.
- C. 収縮性パターンの拡張能障害.
- D. 偽正常化パターンの拡張能障害.
- E. 正常拡張能.

68. この患者の E/A 比\*について最も適当なものは次のうちどれか。

<\*E/A 比…経僧帽弁流入血流拡張早期成分 (E 波)/拡張後期成分 (A 波) の比>

- A. 心拍数の増加に伴い E/A 比は上昇する.
- B. ニトログリセリン投与後 E/A 比は低下する.
- C. 拘束性パターンの拡張能障害では E/A 比は不変である.
- D. バルサルバ手技直後では E/A 比は上昇する.
- E. 上記のいずれでもない.

図 3.2C を用いて次の問題に答えよ。

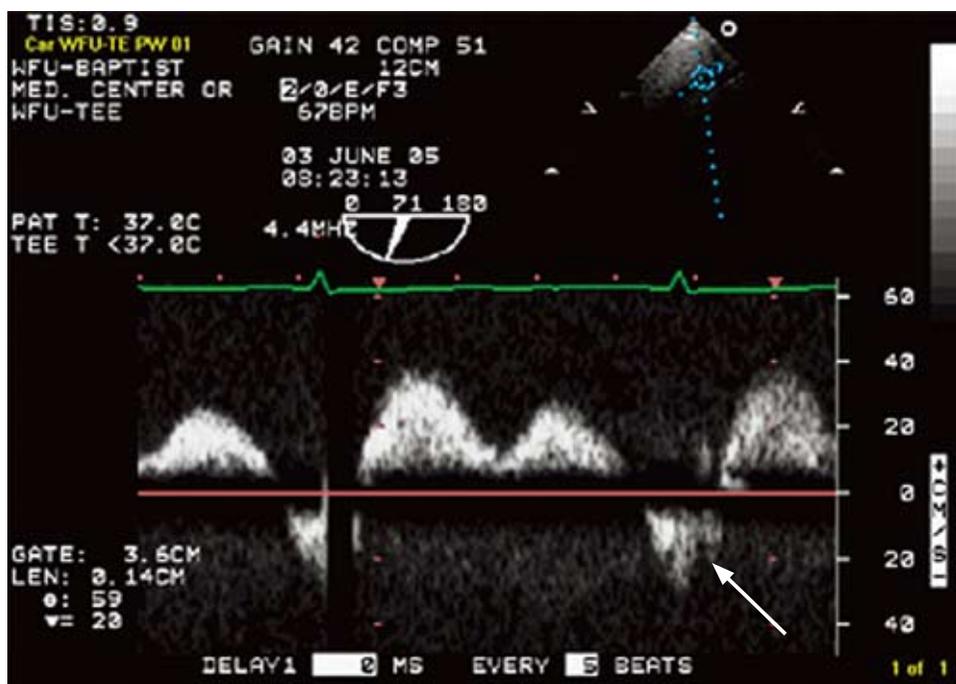


図 3.2C

69. 矢印が示す肝静脈血流波形の異常な増高の原因と考えられる弁疾患は次のうちどれか。

- A. 三尖弁逆流.
- B. 僧帽弁逆流.
- C. 三尖弁狭窄.

70. この患者の拡張能障害は次のうちどれか。

- A. 正常である（拡張能障害を認めない）
- B. 弛緩能低下パターンである。
- C. 偽正常化パターンである。
- D. 拘束性パターンである。
- E. 収縮性パターンである。

71. 次の拡張能の指標のうち、前負荷に最も影響されにくいものはどれか。

- A. パルソドプラ経僧帽弁流入血流速度
- B. パルソドプラ肺静脈血流速度
- C. パルソドプラ肝静脈血流速度
- D. 組織ドプラ左室側壁僧帽弁輪移動速度
- E. パルソドプラ経三尖弁流入血流速度

72. 拘束性パターンの拡張能障害について最も適当なものは次のうちどれか。

- A. 肺静脈拡張期逆行性血流速度 ( $PV_{AR}$ ) の持続時間は、左室コンプライアンスの低下に伴い延長する。
- B. 肺静脈拡張期逆行性血流速度 ( $PV_{AR}$ ) は、心房機能の低下に伴い上昇する。
- C. 正常の肺静脈血流波形において、収縮期順行性血流 (S波)/拡張期順行性血流 (D波) 比は1以上である。
- D. 組織ドプラ左室側壁僧帽弁輪移動速度 ( $E_M$ ) は8 cm/sec以上である。
- E. 経僧帽弁流入血流拡張早期成分 (E波) の減速時間 (DT) は延長する。

73. 経僧帽弁流入血流速度およびカラー M モード経僧帽弁流入血流伝搬速度 ( $V_p$ ) を図 4.2 B に示す。この患者の拡張能障害は次のうちどれか。



図 4.2 B1

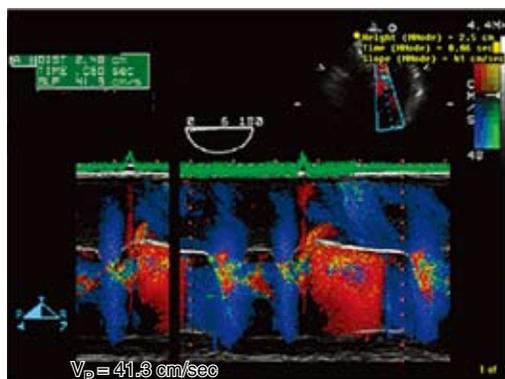


図 4.2 B2

- A. 正常である（拡張能障害を認めない）。
- B. 偽正常化パターンである。